

世界が認めたエコキャンパス。
日本工業大学は、
「国際環境規格ISO14001」を認証取得しました。
2001年(平成13年)6月27日



日本の認定機関JABと国際的に権威のある英国の認定機関UKASの認定を取得。
JACO(日本環境認証機構)による認証取得は、日本を始め世界で通用しています。

ISO 14001

ISO14001は、国際標準化機構(ISO)が取り決めている環境関連規格ISO14000シリーズの一つで、環境負荷低減のための環境管理・監視システムの整備がなされているかどうかを審査登録機関が審査し、適合を確認できた場合だけ取得できます。具体的には、まず組織の最高経営層が環境方針を立て、その実現のために計画(Plan)し、それを実施及び運用(Do)し、その結果を点検及び是正(Check)し、それを定期的に見直し(Action)していきます。このシステムを継続的に実施することで、環境負荷の低減や汚染の未然防止が行われるものです。ISO14001に基づく環境マネジメントシステム構築による認証取得で、組織は自らが環境配慮へ自主的・積極的に取り組んでいることを有効に示すことが可能となります。ちなみに、一部施設だけでなくキャンパス全体を対象としたISO14001の日本の教育関係の認証取得は、本学がさががけをなすものです。



REMEMBER MESSAGES!

心にとめておきたいメッセージ

未来からの13項目の記録

1. わたしたちは地球から“いのち”をもらっていることをおろそかにしていた。
2. わたしたちは地球に合わせて生きてはいなかった。
3. わたしたちは地球のおかげで生きていることを忘れてしまっていた。
4. わたしたちは地球をつくっている、という気持ちになってしまっていた。
5. 地球は「合理的なバランス」の上に立ってデリケートに形成されていることを、無視してきてしまった。
6. 大自然の設計図は、寸分の狂いもなく“いのち”を変化させ続けている事に気付かなかった。
『哲学者レオ・パスカーリア博士の発言』
7. 人間の設計図もまったく同じように“いのち”を変化させつづけている事に気が付いていなかった。
8. 大自然の“いのち”を壊していることは、人間の“いのち”を壊している事に気が付いていなかった。
9. 21世紀は、物事が本来の姿に戻ることで最もよく機能する「合理的なバランス回復」の時代だと思っていなかった。『京都大学教授 中西輝政氏（国際政治）の発言』
10. 生態系に調和させるテクノロジーによって地球を本来の姿に戻さなくてはならないと考えなかった。
11. 監視中の『宇宙ゴミ』は8000個を超える。監視網にかからないものは10万個を上回っていた。1957年のスプートニク号以来、各国は4000回以上もロケットを打ち上げ、その最上段部分や使用済み衛星の破片などが地球周回軌道に満ちていた。
『米国の北米航空宇宙防衛司令部掌握・読売新聞社説2001年3月13日号』
12. むかしは、そんなに無茶苦茶まじめに頑張らなくてもいいんですよ、と云えばよかった。
『河合隼雄氏の発言』
13. わたしたちは、みんな「危機」にぶつかった時が必ずあった。苦しいときがあった。その時、わたしたちはそれを乗り越えてこなかった。だから幸せを感じ取れることが出来なかった。

地球環境保全修復宣言

地球を大事にする™

TAKE GOOD CARE OF THE EARTH™

地球は痛め付けられている。
地球を見捨てて脱出する物語を現実のものにしてはならない。
わたしたちは地球に感謝し、恩返しをすることを一日に一つでも
具体的に行動にうつしていきます。

OUR PRINCIPLES!

地球社会の持続的発展のために

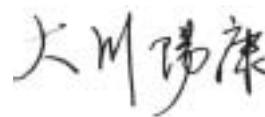
N.I.T.の環境方針

日本工業大学は、地球環境の保全が人類全体の最重要課題であることを強く認識するとともに、キャンパス内のすべての活動が環境と調和するように十分配慮して環境マネジメントシステムの構築をはかり、次の活動を積極的に推進します。

1. 本学のすべての活動において、環境に及ぼす影響を常に意識し、環境汚染予防を徹底するとともに、環境マネジメントシステムの定期的な見直しをはかり継続的改善を推進します。
2. 本学のすべての活動において、環境関連法規制及びその他本学が同意した要求事項を遵守します。
3. 本学のすべての活動において、以下の環境目的・目標を設定し、誠意をもって取り組みます。
 - ① 本学の標榜する「ものづくりの技術」と「環境マインド」を兼ね備えた学生を育成し、さらに環境共生技術に関する研究の進展をはかること。
 - ② 本学の教育・研究活動成果を公開講座、シンポジウムなどを通じて広く地域社会にも開放し、環境共生意識の啓発、普及をはかること。
 - ③ 本学の環境負荷低減についての研究成果を、可能な限り自らの環境管理活動において実践し、環境マネジメントシステムへの反映をはかること。
 - ④ 省資源・省エネルギー施設の展開、廃棄物の削減・適正管理、化学物質の適正管理、キャンパス緑化の推進向上などに積極的に取り組み「クリーン・グリーン&エコキャンパス」の一層の推進をはかること。
 - ⑤ 本学が購入する物品について、グリーン調達を推進をはかること。
4. この環境方針を達成するため、全教職員、学生及び学内関連機関が一致協力して環境保全活動を推進します。

平成12年10月10日

学校法人 日本工業大学 理事長



環境目的・目標

1. 環境教育

- ・教職員及び学生の環境意識の向上
 - ・研究成果を環境管理活動の具体的な取組みに反映
 - ・学生環境推進委員会との緊密な連携及びコミュニケーション
2. 電力使用量の削減／平成11年度比5%削減の実施
 3. ガス使用量の削減／平成11年度比2%削減の実施
 4. 上水使用量の削減／中水（雨水）利用の拡大
 5. 紙使用量の削減／紙使用の現状分析と削減の実施
 6. 廃棄物の削減と適正管理／分別収集の徹底
 7. 化学物質等の適正管理／現状の把握と管理方法の改善
 8. 緑地整備及び保全
 9. グリーン調達の積極的な推進

日本工業大学は建学の精神を95年間、脈々とうけついでいます。

1. 理論と実践のくり返しを通して、高度工業社会の知識を体系化し得る知的技術者の育成につとめています。
2. 個人の能力・感性を育む、工業高等学校から本大学へと手づくり教育による創造的技術者の育成につとめています。
3. 未踏の領域に挑戦する技術者の支援と育成につとめています。
4. 本大学は企業と協力して、問題の解決にあたる技術者の育成につとめています。
5. 地球と共生することのできる視野に立ち、自ら具体的な実行にうつしていける技術者の育成につとめています。

ECO-CAMPUS WATCHING

エコキャンパス・ウォッチング

「学生環境推進委員会」の 9人のサムライが語る。

佐藤人詩 中央執行委員会委員長

(機械工学科4年 長岡工業高校)

環境に対する正しい知識を身に付けて、学生により良い影響を与えられるように頑張っていて活動していきたいと思っています。

今井彰広 中央執行委員会副委員長

(機械工学科4年 長岡工業高校)

大学の環境に対する考え方を、もっと多くの学生に理解してもらえるように、これからも呼びかけを続けていこうと思っています。

古澤雅仁 中央執行委員会会計局長

(建築学科4年 高田工業高校)

認証取得はゴールではなく、スタート地点に立ったばかりです。EMS(環境マネジメントシステム)の維持・向上活動に終わりはありません。

岩谷 勇 大学祭実行委員会委員長

(機械工学科3年 東京工業高校)

今の学生がいなくなっても、なお環境推進が続けられるよう、よい土台を構築していければと思っています。

藤原大助 体育祭実行委員会委員長

(建築学科4年 水島工業高校)

私は、今までISOについて勉強してきて、多くの事を学んできました。そして、今まで気にならなかった事にも気を配るようになってきました。今後も、もっとISOについて勉強していき、日本工業大学の環境目標に少しでも近づけるよう努力していきたいと考えています。

加藤正和 卒業アルバム委員会委員長

(電気電子工学科4年 長岡工業高校)

今は自分に何ができるかわかりませんが、日本工業大学のため、自分のため、未来のために、頑張っていこうと思っています。

戸田健太 学生生活向上委員会委員長

(機械工学科3年 東京工業高校)

環境推進とは、周りの環境についてよく考える事から始まります。それにより周りを見直し、新たな一歩をふみ出そうと思っています。

関根伸一郎 体育会会長

(システム工学科4年 茂原工業高校)

学内環境について、深く考えることや改善していくことに取り組むことで、自分自身の環境に対する関心が大きく変わりました。

高澤昌樹 文化団体連合会会長

(機械工学科4年 行田工業高校)

今、環境を考えるということは、私達の未来を考えるということ。活動を通して、ひとつの団体の会長としてだけでなく一人の工業大学生として、環境を考え未来へと紡ぐ工業人を目指していきたい。



N.I.T. OPEN DOOR

日本工業大学 環境推進事務局

環境に関するご意見や話題、本誌に対するご要望など、お気軽にお寄せください。

Eメール: iso14001@nit.ac.jp TEL.0480-33-7503 FAX.0480-34-2941

日本工業大学へのアクセス

- 最寄り駅:東武伊勢崎線
または地下鉄日比谷線の東武動物公園下車、約1,300m
- 上野から40分
- 新宿から60分
- 銀座から60分
- 表参道から60分

 **日本工業大学**

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
TEL.0480-34-4111(代) FAX.0480-34-2941
http://www.nit.ac.jp

